

民学市習会 学テの「点取り競争」で学方向上は望めない②

2 安倍「教育再生」のもと
(1) エリートづくり

・安倍「教育再生」のねらいの大きなひとつに、「世界で企業が一番活動しやすい国」をめざすとして、企業の



利潤追求に役立つ人材育成を教育に求めています。
・だから、子どもたちを小学校段階から競わせ、早い段階から財界に役立つ人材を選りすぐり、小中一貫教育学校（仮称）などの「できる子」用のコースにのせて、エリートづくりをしようとしています。

(2) 競争強化と切り捨て

・いまの学習指導要領は、極限のつめこみといつてよい中身となっています。中身は一九八九年年学習指導要領、ほぼそのままです。学校週6日制のときにつくられた中身を学校5日制でやろうとするものですから、本当にひどいつめこみとなっています。

ている学習指導要領をこそ見直さなければならぬものです。ところが、そうではなく、子どもと教職員、学校にその責任を押しつけ、学テの結果を学校別に公表させて、各学校を序列化して競わせるといのが、いまのやり方です。

止せざるを得なくなりました。

(2) イギリスでは

・イギリスでは一九八〇年代、サッチャー首相の時代に、それまではなかったナショナルカリキュラム（日本で言う学習指導要領）をつくり、ナショナルテスト（全国一斉学力テスト）を実施し、その結果をリーグテーブル（番付表）で学校ごとに公表して、成績の悪かった学校には「教育水準局」から査察官を派遣して、その学校をギリギリしめあげ、それでも改善が見られなかった場合は、廃校にするというやり方がおこなわれてきていました。



破たんは明らかです。

(3) アメリカでは

・「教育改革」を生み出した「落ちこぼれゼロ法」（ブッシュ政権時代につくられた法律）の作成に携わった教育研究者であるニューヨーク大学のラビッチ教授は、アメリカにおける「教育改革」が、失敗したと言われているイギリスの「サッチャー改革」をモデルとしていることを明らかにし、大阪の事態に警鐘を鳴らしました。

和泉市の学校給食をよくする会第2回市民学習会

「学校給食委託になったらどうなるの？」

資料代 300円



日時：11月30日（日）午後2時～4時

場所：和泉シティプラザ

コーディネーター：榎原 正澄さん

関西大学経済学部教授 農学博士
(豊かで安全な学校給食をめざす大阪連絡会会長)

和泉市教育委員会は、学校給食調理業務の民間委託を決定しました。調理業務が委託になると、今までの給食と何が違うのか、どう変わるのでしょうか。大阪府下の小学校で直営校・委託校の両方の給食に携わってこられた栄養教諭の方からお話を伺い、考えたいと思います。みなさんのご参加をお待ちしております。

保育あり。希望される方は下記までご連絡ください。
11月20日(木) 締切り

0725-45-7640
和泉市職員労働組合



(3) 格差拡大をねらう
・仮に学テの結果が悪ければ、その前提となつ

3. 世界各地で失敗

(1) 日本では

・日本では、一九六一年年から六四年の4年間、全国一斉学力テストが実施されました。
・しかし、成績の悪い子をテストの当日休ませたり、教員が子どもに答えを教えるなどの不正が相次ぎ、大きな国民的批判の前に、中

は向上しませんでした。全員参加型のテストの

組合に加入して、「教育基本条例」「評価・育成システム」をなくそう！